

## 令和3年度 第2回香芝市男女共同参画推進委員会 議事要旨

1. 開催日時：令和3年10月14日（木） 午前10時～正午

2. 場所：香芝市役所3階 第1会議室

3. 議事

※■：事務局より説明 / 主な意見：○委員、●事務局

### (1) 市民意識調査・事業所アンケート調査の結果報告について

#### ■事務局（案件・資料の説明）

○会長 まずは、「香芝市男女共同参画に関する事業所アンケート調査 結果報告書」からご意見いただきたい。

○委員 P4 調査結果のまとめ「事業所アンケート」も「市民意識調査」のように項目ごとに見出しをつけてまとめる方が、読む側にとって分かりやすい。

アンケートでは質問が多くあったので、調査結果をなるべく多く「まとめ」に反映してほしい。調査結果から施策へとつながるような、説得力のあるまとめにしていきたい。

●事務局 修正する。

○委員 アンケートのP63～「ハラスメントについて」では、取組をしているのか、どのような形で相談体制を整備しているのかなど、取り組み状況が確認できてよかった。

ハラスメントの問題はとても難しいため、これからプラン策定に向けて、具体的な事例や取り組み方などがプランで示されるとよい。

○会長 ハラスメントに関して、事業所アンケートには回答者の性別や立場といった属性によって、回答者の意向が含まれているのではないかと思う。

○委員 簡単に性別では分けられないとはいえ、意図していなくても性別・年代によって差がある分野ではないかと思う。また、育ってきた環境やこれまでの仕事環境もそれぞれ違うため回答に差がでると思う。

○会長 委員の意見としてそういったこともプランの体系の中に入れ込むことは可能か。

●事務局 委員会の意見や現状の課題や問題点といったものを次回提示する計画案の中になるべく盛りこんでいけるよう、計画案を検討し次回の委員会で報告する。

○委員 P28の問8「職場の雰囲気について」で、前回（H28）と比較していることは分かりやすくよいが、どちらがどの年のグラフか見出しがほしい。説明文で「はい」が増えていますが、正しくは減っている。

●事務局 点検、変更する。

○委員 両立支援について、様々なところで育児休業とっている男性が増えている。これからも育

休をとる人が全体的に増えていくと思う。そんな中で今後は、休業期間もポイントになってくると思うので、期間も調査していく必要があるのではないかと思った。「育児休業をとられた方はどれくらいの期間取得されましたか。」というような設問があるとよい。

○委員 P26の昇進における男女平等に関するコメント部分で、医療福祉で男女平等の割合が高いとなっているが、他の事業者では100%のところもあるので、不適切に感じる。業種別ではなく、こちらも規模別に分けた方がいい。

●事務局 クロス集計、コメントの部分、点検・修正する。

○委員 アンケート送付時は、アンケートだけを郵送したのか。

●事務局 送付状とアンケートのみである。

○委員 アイデアレベルだが、「取り組んでいる」「取り組みたい」というような企業が割合としては多かったが、例えば、育休で補助金が出るといったような情報が届いているのかどうかというところは見えないので、そういった情報を一緒に送るのも良いと思う。回答率33%と多くなかったことに対しても、アンケートに関してのメリット、自分たちが回答することによって良くなっていくという実感をもてるような作成の仕方を、次回アンケートをする際にはできるとよいと思う。回答した企業にとってメリットがあるように啓発できればと思う。

○会長 香芝市がいろいろなアンケートをする際に、このアイデアは大事なことだと思う。このような機会を通じて啓発できれば、また回答するメリットがあるということが回答者を増やす工夫になる。

●事務局 次回アンケートを実施する際、検討する。

○会長 次に「香芝市男女共同参画に関する市民意識調査 結果報告書」からご意見いただきたい。

○委員 目次とP1記載の調査項目の表の番号が違うためわかりにくい。本文を読んでももらえないといけないので、信頼いただけるように作成してほしい。

●事務局 確かにわかりづらくなっているので、一度整理方法について検討する。

○委員 P5～調査結果のまとめにある「6 DV・ハラスメントについて」の説明文はかなり省略している部分がある。DVについてはまとめてあるが、ハラスメントについて記載がない。他にも「4仕事と家庭生活の両立支援について」も問17から19まで質問があるのに説明文が短すぎる。まとめ部分が一番大事な部分だと思うので、内容をしっかり記載してほしい。

●事務局 初めのまとめ部分を読めば全体が伝わるように、まとめ部分を詳しく書くように修正する。

○委員 全般通して、新型コロナウイルスや災害対策など、現代的かつ必要な設問がはいつてきている。その中で例えば、P43の「災害の脅威に備えるために何が重要だと思いますか」という設問で、選択肢に「日頃からコミュニケーション、地域のつながりを大切にする」がある。この選択肢で前提としている「地域」の指し示す部分が人によってはかわってくるのではないだろうか。

私は、小学校区や地区の避難所がカバーしている範囲をイメージするが、20代くらいの方は、

もっと違うコミュニティを想定するかもしれない。

P 6 8 の新型コロナウイルスの感染症による影響に関する設問で、「人との交流機会が減っている」という回答がある。私は対面での交流機会を想定するが、若い人たちからすれば、オンラインでの交流も含めると何も変わらないということがあるかもしれない。質問の前提が年代などそれぞれ人によって違うということが起きうる。次回のアンケートでは、どういう状況で人との交流が減っているのかを特定して質問してもいいかもしれない。どういう場なのかという部分が特定されることで、啓発や研修の方法が変わってくることもあると思う。

●事務局 そのことを踏まえて次回アンケートを作成したい。

○委員 P 9 0 ・問 2 9 セクシュアルハラスメントについて、グラフのコメント部分ではハラスメントを受けたことがある割合について書いた方がいい。「受けたことがある」という人の割合に焦点を当てて、今後増えていくのか、減っていくのかという動向を観察していく必要がある。香芝市にはこれだけの人がハラスメント等を受けているという実態・問題に焦点をあてた説明文にすべきだ。

気付かずに被害にあっている方がいると思う。啓発周知することで、これがハラスメントだと気付き、状況が変わっていくと思う。それを見守っていききたい。

●事務局 ハラスメント・DVについても、被害を受けている方がいるという問題に焦点を当てた説明文に変更する。

○委員 少ない数字だと「(問題が) ない」と勘違いしてしまうからこそ、コメントが大切になってくる。

○委員 DVについても、暴力にあたると思うかという質問になっている。基本的には「暴力にあたると思う」の回答をピックアップしているが、特にP 7 7では「暴力にあたると思わない」という側をピックアップしてもいいのではないか。

○委員 男性より女性の方が精神的暴力についての認知度が高いというコメントの記載があったが、「大声で怒鳴る」に対して「暴力にあたらぬ場合もある」と回答しているのは男性の方が多い。大きい声を出されるというのは怖いことなので、暴力にあたることを男性にも分かってもらえるとよい。

○会長 これは質問で啓発している部分もある。身体的暴力だけがDVではないということも大事な啓発だ。こういう設問を次回のアンケートで比較すると、DVに関する認知度が上がっていることが分かるかもしれない。

○委員 P 5 からの「調査結果のまとめ」について、もう少し見やすい方法はないかと考えていた。大事な部分を太字にする、箇条書きと文章を併用するなどの工夫が考えられる。例えば男女平等意識について、調査結果の参照ページが示されていれば、関心のあるところを参照しながら読み進められ、分かりやすいのではないだろうか。

○委員 DVのところで身体的暴力と精神的暴力の認知の差を伝えたい。

P 7 6 「足でける」、「平手で打つ」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と思っている方は大体80%であるのに対し、「なぐるふりをして、おどす」について「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が69.5%、「大声でどなる」について「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が51.4%と、精神的暴力の項目については、暴力にあたると思う人が10%以上少ない。

こういった部分をまとめのところで書けば、身体的暴力と精神的暴力の差について、認知してもらいやすいのではないかと。

○会長 読む人がわかりやすいよう、もう一工夫をお願いしたい。

●事務局 了解した。

○委員 事業所アンケートの対象に、学校などの公的機関は含まれていない。学校現場のことをもう少し知ってもらう機会があればと思った。

子どものことは学校で対応するが、地域のことは地域の力を高め、家庭のことは家庭の力を高め、その力を集結して教育に取り組んでいただきたい。

○委員 総合計画にある「市民ができること」、「行政ができること」、「事業者ができること」、「地域団体ができること」というように、男女共同参画プランでも自分に置き換えて分かりやすいようにまとめていくのは大事なのではないかと。

## (2) 第3次男女共同参画プランの施策体系案について

■事務局 (案件・資料の説明)

第3次プランの施策は、第2次プランの施策内容から、昨年12月に策定された国の基本計画や社会情勢、アンケートの結果等を踏まえ再構築した内容にしている。

先ほどまでの会議内容を含め、方向性に不足がないか、表現の気になる部分等含め意見をいただきたい。

○会長 第2次プランは基本目標が1から4までであったが、今回は3つの柱でまとまっている。

●事務局 国の施策と揃える形で作成し、配布資料にも国の第5次基本計画との関連を記載している。次回の会議では施策体系をもとに事業内容や課題等を記載し、計画書案になったものを提示する。今回意見があった、DVの男女の認知度格差やハラスメントの認識についてなどを計画の中に書き込んでいければと思っている。

○委員 「Ⅱみんなが安心して暮らせる環境づくり」—「1.あらゆる暴力の根絶」—「③若年層への啓発強化」については、なぜ若年層にターゲットしているのか。

●事務局 JKビジネスや性暴力性犯罪に関し、重点的に行政で取り組んでいこうという国の方針等を踏まえ、これまでは年代関係なく啓発してきたが、この項目に関しては具体的に事業を入れていきたいということで若年層に限定している。

○委員 「Ⅲ誰もが等しく輝ける社会の基盤づくり」—「1.男女共同参画意識の浸透」—「②男女共同参画意識づくりのための学校教育」とあるが、学校だけではなく、地域、社会、家庭全てにおける教育という枠組みの方がいい。

●事務局 変更する。

○委員 若年層に啓発強化については必要と思うが、国は若い人たち自身に気を付けるよう啓発をしているが、加害者が悪いのは当然のことなので、表現する際には配慮いただきたい。

○委員 Ⅲ-1-②は、教育をどうするのか、作っていくのか、啓発していくのか、推進していくのか、アクションが変わってくるので、施策の言葉にはこだわりたい。

○会長 アンケートで、意外と20歳未満の若い女性たちが保守的な意見を持っている印象があった。経済的な自立を望んでいないのが垣間見える。

それを食い物にするJKビジネスは良くないが、同じアルバイトならそれが手っ取り早いと思う人もいる。

現実が分かってきて30代くらいになると、女性も経済的に自立していかなくてはと分かると思うのだが、自分の為にも若いうちから意識していかないといけないと思う。そういう啓発は大切だと思う。

○委員 子どもは自身の家でしか経験せずに育っていく。父親は家庭との関係が希薄なことが多く、母親が育ってきた家庭がその家の中心になっていることが多い。20歳過ぎて社会を経験することで個性が育っていく部分もあるが。

○委員 幼い段階から色々な環境に触れていくのは子どもたちにとって大事だと思った。Ⅲ-1-②に落とし込まれるとよい。

●事務局 検討し、次回報告する。

○委員 福利厚生や職場環境については、雇用主や管理職に責任があるが、雇われている人も一緒に醸成していくという働きかけができればと思った。

○会長 公的機関を含めた職場という部分の連携があれば、いいアイデアもまた出てくるのではないかと思う。施策に落とし込んでいければと思う。

### (3) その他

■事務局 (案件説明)

今後の委員会スケジュールについて

以上